

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	13
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	スポーツ大会出場激励金制度の普及	5	3	1	増加指標	60.00 %	c	c
②	スポーツ推進委員の指導力向上	5	9	1	増加指標	180.00 %	a	
③	大田原マラソン大会の実施	3,000	2,188	1	増加指標	72.90 %	c	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	競技人口の拡大	100	121	1	増加指標	121.00 %	a	c
②	ニュースポーツの普及	80	60	1	増加指標	75.00 %	c	
③	RUNET大会レポート	70	85	1	増加指標	122.00 %	a	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		各事業の周知については、ホームページや広報等での周知に努める。 特に、新たに創設した「スポーツ大会出場激励金」の制度については、県内の高校や市内の中学校、スポーツ少年団に対し周知徹底を図る。 4年ぶりの開催となる大田原マラソン大会については、ホームページやSNSを活用し募集定員の確保に努めたい。また、日本陸連公認大会として安全に大会を開催するための準備を進めていく。
	前年度からの 改善結果	改善した	各事業の周知については、市ホームページや広報、よいちメールを始め、SNS等での周知に努めてきた。 4年ぶりに開催した大田原マラソンについては、日本陸連公認大会として開催するため、新規で公認を取得し、安全に大会を開催することができた。定員の確保には至らなかったが、大会再開を大きくPRすることができたので、次年度につなげたい。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	B	A	令和5年度から新たに創設した「スポーツ大会出場激励金」の制度については、各団体へ周知を図り、旧制度からスムーズに移行できたと考えている。コロナ明けで各種事業を再開したが、これまで積み上げたノウハウが途切れ苦労した点はあったものの、計画通り事業を実施することができた。特に4年ぶりに開催した大田原マラソン大会を無事に終えることができたのは大きな成果と言える。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	令和5年度から新たに創設した「スポーツ大会出場激励金」について、さらに周知を図っていくことに合わせ、県内の市町の状況を見ながらより良い制度となるよう改善を図っていく。 コロナ明けで各種スポーツ大会や事業が再開されたが、過去のノウハウがうまく引き継がれていないため、確認しながら対応していく必要がある。また、再開したスポーツ事業について市民や対象者に対して広くPRしていく。 特に、大田原マラソン大会やくろばねマラソン大会については、参加者の獲得が課題となっている。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	各事業の周知については、引き続き市ホームページや広報等での周知に努める。 特に、新たに創設した「スポーツ大会出場激励金」の制度については、県内の高校や市内の中学校、スポーツ少年団に対し周知徹底を図る。 大田原マラソン大会やくろばねマラソン大会については、事業内容を見直し、魅力ある大会にしていきたい。ホームページやSNSを活用し募集定員の確保に努めたい。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	B	新たに創設した「スポーツ大会出場激励金」の制度については、より活用しやすいように制度の見直しを図っていく。 大田原マラソン大会やくろばねマラソン大会については、事業内容を見直し魅力ある大会にしていくとともに、ホームページやSNSを活用し募集定員の確保に努めたい。

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	16
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質	達成率 b/a	効率性評価			
							各指標評価	指標全体評価		
①	県北体育館夜間利用受付件数	360	件	509	1	増加指標	141.40	%	a	c
②	トレ室講習件数	110	件	84	1	増加指標	76.40	%	c	
③	トレ室利用可能日数	320	日	347	1	増加指標	108.40	%	a	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質	達成率 d/c	有効性評価			
							各指標評価	指標全体評価		
①	トレ室利用者数	13,100	人	8,885	1	増加指標	67.80	%	c	d
②	トレ室講習参加者数	420	人	244	1	増加指標	58.10	%	d	
③						算定不可		%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		大田原市シルバー人材センターとの連絡調整を行い、適切な労働環境を整えるとともに、スキルアップを図っていききたい。 栃木県に対してトレーニング室の設備要望を引き続き行っていききたい。
	前年度からの 改善結果	検討中	大田原市シルバー人材センターとの連絡調整を行い、適切な労働環境を整えるとともに、スキルアップを図っていききたい。 栃木県に対してトレーニング室の設備等更新要望を引き続き行っていききたい。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	D	B	夜間、休日の就業前に問題点や引き継ぎ事項などの文書を作成し、職員が不在の際も円滑に受付業務が行えるように努めている。 令和5年度以降については、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行するなど、感染症発生以前の状況に戻りつつあるため、安全を確保しつつ利用者の増加を図っていく。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	シルバー人材センター内の人材確保が厳しいため、平日の日中が1人体制となってしまう労働時間が長時間となってしまう。契約内容は、労働基準法上、問題が無い範囲であるが、栃木県スポーツ振興課から契約内容や仕様書記載内容の改善要望がでていたため、内容の見直しを行うこととした。 トレーニング室の器具の老朽化が進んでおり、利用者の減少の一因にもなっている。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	大田原市シルバー人材センターとの連絡調整を行い、適切な労働環境を整えるとともに、スキルアップを図っていききたい。 栃木県に対してトレーニング室の設備要望を引き続き行っていききたい。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	C	大田原市シルバー人材センターとの連絡調整を行い、適切な労働環境を整えるとともに、スキルアップを図っていききたい。 栃木県に対してトレーニング室の設備等更新要望を引き続き行っていききたい。

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	4	15
② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	4		
④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	4		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	体育館使用申請受付件数	1,380	1,243	1	増加指標	90.10 %	a	b
②	武道館使用申請受付件数	410	339	1	増加指標	82.70 %	b	
③					算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	体育館利用者数	28,100	24,672	1	増加指標	87.80 %	b	b
②	武道館利用者数	7,300	8,136	1	増加指標	111.50 %	a	
③					算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	これまでどおり継続して利用してもらえるよう、予算の範囲内で可能な修繕、維持管理を行っていく。また、管理業務を委託しているシルバー人材センター会員と連絡、意思疎通をはかり、適切な運用を行う。	
	前年度からの 改善結果	検討中	これまでどおり継続して利用してもらえるよう、予算の範囲内で可能な修繕、維持管理を行っていく。また、管理業務を委託しているシルバー人材センター会員と連絡、意思疎通をはかり、適切な運用を行う。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	B	B	バスケットゴールの耐用年数や防球ネットの破損、照明のLED化問題など多くの課題がある施設である。安全面を考慮し、早めの対策が必要であるが、施設の建て替えを視野にいれているため実施するか悩ましい。可能な範囲内での施設の維持補修に努めていきたい。令和5年度には暗幕の修繕を行い、光漏れによる競技への支障を大幅に軽減することができた。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	施設の老朽化が著しい。床材の割れも各所で確認されており大規模修繕が必要な状況となっている。大田原体育館は、ほぼ毎日市スポーツ協会各専門部の利用があり、また、週末は中学・高校の大会等で利用がある。また、ハーモニーホール駐車場がバス駐車場として利用不可となるため、周知の徹底が必要である。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	これまでどおり継続して利用してもらえるよう、予算の範囲内で可能な修繕、維持管理を行っていく。また、管理業務を委託しているシルバー人材センター会員と連絡、意思疎通をはかり、適切な運用を行う。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	B	利用者が安心して利用できるよう、予算の範囲内で可能な修繕、維持管理を行っていく。また、管理業務を委託しているシルバー人材センター会員と連絡、意思疎通をはかり、適切な管理を行う。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

事務事業名		美原公園管理事業				事業番号	99	評価年度	令和7年度事業	
担当名		部 名	課 名	係 名		優先度	A	シート区分	総合計画	
予算科目		会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興		
事業期間		■単年度 □複数年度 (~ 年度)				計画	おおたわら国造りプラン			
		教育部	スポーツ振興課	管理係		政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり		No. 2	
		一般会計	10.06.02	0306	01	00	基本事業	14		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 美原公園内の本球場、第2球場、陸上競技場、テニスコート及び相撲場の利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設の適切な維持管理により利用者の増加を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 適切な維持管理のため適正な予算化に努める。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設の適切な維持管理により利用者の増加を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称		目標値の算出式(又は方法)		目標値		単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	使用申請受付数	前年度申請の受付数2%増加		7,567		件
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	利用者増促進	前年度利用者数÷9月(開館月数)×12月		208,108		人	
		②	園内施設の平均利用率設定	前年度平均利用率の3%増		85		%	
		③							

3. 実行(Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	美原公園は市の体育施設が集中している運動公園で、本球場、第2球場、テニスコート、相撲場、陸上競技場などの施設を配置しており、本市のスポーツ振興において市民のニーズに合致する重要な運動公園に位置付けられている。 令和5年度にテニスコートの照明点灯盤の新設を実施した。照明点灯時の操作簡略化及び点灯時間の精密性の確保並びに安全性の確保ができるようになった。 施設の利用者数は新型コロナウイルスが流行する以前の状態と同等もしくは上回る値まで回復している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
事業費計			34,341	35,312		
財 源 内 訳	国庫支出金		0	0		
	県支出金		0	0		
	地方債		0	0		
	その他特定財源		0	0		
	一般財源		34,341	35,312		
(c) コストの対前年比				102.83%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	3	14
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	4		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	4		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価			
		単位					各指標評価	指標全体評価		
①	使用申請受付数	7,567	件	8,866	1	増加指標	117.20	%	a	a
②						算定不可		%		
③						算定不可		%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価			
		単位					各指標評価	指標全体評価		
①	利用者増促進	208,108	人	201,296	1	増加指標	96.70	%	a	a
②	園内施設の平均利用率設定	85	%	90	1	増加指標	105.90	%	a	
③						算定不可		%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		前年度同様、施設及び設備の現状把握に努め、改善に向けて迅速な対応及び的確な維持管理を行い、より多くの利用者が安心して利用できる施設管理を行う。 水泳プール跡地利活用は、財源不足であるため補助金等の検討を進めたい。
	前年度からの 改善結果	検討中	前年度同様、施設及び設備の現状把握に努め、改善に向けて迅速な対応及び的確な維持管理を行い、より多くの利用者が安心して利用できる施設管理を行う。 水泳プール跡地利活用は、財源不足であるため補助金等の検討を進めたい。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	A	A	施設の利用者数が新型コロナウイルスの流行前に戻った。 テニスコートの照明点灯盤の新設を実施した。以前のコイン式の点灯盤は故障により感電の恐れがあったが、新設により操作簡略化と安全性の確保ができるようになった。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	施設の老朽化による修繕や、利用者のニーズに合わせた改修などが多い施設である。テニスコートと第2球場の照明設備が水銀灯であり、在庫品の製造が中止になっているため、LEDへの改修が必須になってくる。特にこの施設はナイターの利用頻度が高い施設であるため、早々の対応が必要になると考えられる。 施設・設備の現状把握に努め、迅速な対応、適切な維持管理を行わなければならない。 美原公園再整備に向けては大きな課題がある。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	前年度同様、施設及び設備の現状把握に努め、改善に向けて迅速な対応及び的確な維持管理を行い、より多くの利用者が安心して利用できる施設管理を行う。 美原公園再整備は時間を要するが、今後を見据え慎重に計画を進めたい。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	A	前年度同様、施設及び設備の現状把握に努め、改善に向けて迅速な対応及び的確な維持管理を行い、より多くの利用者が安心して利用できる施設管理を行う。

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	3	13	a
	②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質	達成率 b/a	効率性評価		
							各指標評価	指標全体評価	
	①	使用申請受付件数	5,600	件	7,700	1	増加指標	137.50 %	a
	②	開放施設数	37	校	37	1	増加指標	100.00 %	a
③						算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質	達成率 d/c	有効性評価		
							各指標評価	指標全体評価	
	①	利用者数	143,500	人	143,900	1	増加指標	100.30 %	a
	②	施設の利用率	45	%	44	1	増加指標	97.80 %	a
③						算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		施設状況をよく把握して適切な維持管理を進めながら、利用者に快く利用してもらうよう努める。開放施設によって利用率に格差があることから、担当課において空き状況等を把握し、利用希望団体に斡旋できる体制を整える。施設の修繕等は、予算の中で優先順位をつけて行う。
	前年度からの 改善結果	改善した	施設状況をよく把握して適切な維持管理を進めながら、利用者に快く利用してもらうよう努めた。開放施設によって利用率に格差があることから、担当課において空き状況等を把握し、利用希望団体に斡旋できる体制を整えた。施設の修繕等は、予算の中で優先順位をつけて行った。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	A	B	郊外の学校施設及び学校跡地運動場の利用者が少ないため、利用者が希望する市街地の学校施設が利用できない際に郊外の学校施設の利用を促している。利用者数は目標値の約0.3%増となり今後も利用者数が更に増加することが想定されるため、児童・生徒の安全を第一に事業運営を行いつつ、引き続き施設全体の利用者数増に努めていきたい。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	○高齢化の進む学校開放施設及び学校跡地運動場の管理人確保が課題となっており、シルバー人材センターへ委託し繋いでいる状況であるが、全ての管理人不在施設への委託配置は困難な状況であるため、今後の運営方法について検討が必要である。 ○学校跡地運動場については、老朽化した施設建物等の継続・廃止の判断と、改修・解体等に要する費用の予算化が必要となる。また、旧校舎建物以外の校庭敷地・体育館建物の維持管理(漏水・草刈り等や近隣住民折衝)の管轄区分に曖昧な部分が多い。令和5年度末を以て湯津上地区小学校2校も廃校となり、令和7年度より学校跡地運動場に追加される予定であり、廃校に関係する部署間において、再度全体的な学校跡地の管轄区分の確認と見直しが必要である。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	施設状況をよく把握して適切な維持管理を進めながら、利用者に快く利用してもらうよう努める。開放施設によって利用率に格差があることから、担当課において空き状況等を把握し、利用希望団体に斡旋できる体制を整える。施設の修繕等は、予算の中で優先順位をつけて行う。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	A	施設状況をよく把握して適切な維持管理を進めながら、利用者に快く利用してもらうよう努める。開放施設によって利用率に格差があることから、担当課において空き状況等を把握し、利用希望団体に斡旋できる体制を整える。施設の修繕等は予算の中で優先順位をつけて行う。

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	3	13
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	4		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	3		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	指定管理者との打合せ回数	50	62	1	増加指標	124.00 %	a	a
②					算定不可	%		
③					算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	利用者数	52,000	34,504	1	増加指標	66.40 %	c	c
②					算定不可	%		
③					算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)	コロナ禍の終息に伴い、今後もコロナ禍以前の利用者数の回復を図っていききたい。また、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズは、県内外のプール施設管理に多くの実績を持ち、管理業務における知識とノウハウを持ち合わせており、今後も密に連絡調整を行い、協力して利用者数の増加に努めたい。利用者増に向け施設イベントや講座開講の充実も検討していききたい。						
	前年度からの 改善結果	検討中	令和5年度においては、コロナ禍以前の利用者数の回復を図るため、運営に必要な施設設備の必要な維持管理(修繕・工事)を実施した。また、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズとも密に連絡調整を行い、利用者の声への対応や、施設設備の維持管理に関して協力して進めることができた。今後も継続して利用者増に向けての対策を指定管理者と検討し実施していききたい。					
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等					
	B	B	令和5年度においては、プール循環装置修繕工事、ろ過循環器ポンプモーター交換工事、プール屋根修繕工事を実施した。利用制限を解除し、利用者数は目標値の約66%に留まったが、利用者数は徐々に回復しており、今後も増加が見込まれる。また、指定管理者からは、施設運営に係る事項に関して随時報告及び提案もなされている。					

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	○平成4年の開館以来30年が経過、施設設備の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕又は改修が必要である。 ○65歳以上のシニア利用者が多く(高齢者割引100円)、収入増が見込めない。 ○コロナ禍以前の年間利用者数は、約5万人が当施設の規模的に適正な数字であり、以前の利用者数まで回復に努めたい。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	今後はコロナ禍以前の利用者数までの回復を図っていききたい。また、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズは、県内外のプール施設管理に多くの実績を持ち、管理業務における知識とノウハウを持ち合わせており、今後も密に連絡調整を行い、協力して利用者数の増加に努めたい。利用者増に向け施設イベントや講座開講の充実も検討していききたい。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	B	コロナ禍の終息に伴い、今後はコロナ禍以前の利用者数の回復を図っていききたい。 また、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズは県内外のプール施設管理に多くの実績を持ち、管理業務において知識とノウハウを持ち合わせており、今後も密に連絡調整を行いながら、相互に協力して利用者数の増加に向けた施設イベントや講座の充実も検討したい。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

							事業番号	102	評価年度	令和7年度事業	
							優先度	A	シート区分	総合計画	
事務事業名 栃木県立県北体育館管理事業							計 画	おおたわら国造りプラン			
担当名		部 名	課 名	係 名				計画での位置付け			No.
		教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり		2	
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興		14		
	一般会計	10.06.02	0498	01	00	基本事業					
事業期間		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 複数年度		(~	年度)			

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対 象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 栃木県立県北体育館の利用者
	目 的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 県北地域における中核的なスポーツ施設として、国際大会や全国大会開催はもちろんのこと、スポーツサークル活動や健康づくりなど幅広い利用を促進し、県民の体育・スポーツ活動の充実と生涯スポーツの積極的な推進を目的とする。
	手 段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 施設の適切な維持管理と県立施設としての貸館業務の対応
	成 果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 利用者における高い質のパフォーマンスの発揮及び快適な利用環境の実感

(2) 指標設定	指 標 内 容		指 標 名 称		目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	専用利用申請の受付件数	令和元年度受付件数(コロナウイルス流行以前の件数)	1,100	件
②							
③							
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	利用者数	令和元年度受付人数(コロナウイルス流行以前の利用人数)	286,000	人	
		②					
		③					

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	栃木県立県北体育館は、管理及び運営業務を指定管理制度のもと本市が受託している。本市を含め県北地区のスポーツ普及振興に不可欠な拠点施設であり、地区・県・全国規模の大会や、Bリーグ宇都宮ブレックスの試合会場、市産業文化祭等のイベント会場としても利用されているほか、2022年には「いちご一会とちぎ国体」の会場としても利用されている。これらの大会等が実施できるよう施設や備品等の適切な維持管理・更新を行い設備の充実を図っている。なお、令和5年度においても新型コロナウイルス感染症の課題があるものの、受付件数や利用人数などは順調に回復している結果となった。
(2)備考	令和5年度については、新型コロナウイルス感染症対策による休館はなし。

(3) コスト計算	内 容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
	事業費計		60,385	86,442		
	財 源 内 訳	国庫支出金	0	0		
		県支出金	47,194	57,357		
		地方債	0	0		
その他特定財源		0	0			
一般財源		13,191	29,085			
(c) コストの対前年比			143.15%			

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	16
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	専用利用申請の受付件数	1,100	件	1,394	1	増加指標	126.70	%	a
②						算定不可		%	
③						算定不可		%	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	利用者数	286,000	人	333,873	1	増加指標	116.70	%	a
②						算定不可		%	
③						算定不可		%	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		必要に応じ、施設や設備、物品の修繕を行い、適切な維持管理を行っていく。また、大規模工事や改修が必要なものについては、県に対し更新要望調査等で要望を行い、順次更新を行っていく。
	前年度から の改善結果	改善した	必要に応じ、施設や設備、物品の修繕を行い、施設の適切な維持管理を行っていく。また、大規模工事や改修が必要なものについては、県に対し更新要望調査等で要望を行い、順次更新を行っていく。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	A	A	令和5年度については、コロナウイルス感染症が第5類に移行したこともあり、多くの大会やイベントが開催され、感染症流行前と同水準まで利用が回復している状況である。今後は、さらなる利用促進に加え、老朽化しつつある栃木県立県北体育館の維持補修が課題となるため、栃木県と協力し対応していくことが必要となる。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	開館から25年以上が経ち、非常用照明直流電源蓄電池や各種アリーナ備品など、経年により更新が必要な設備・備品が多くある。 施設そのものとしても、経年劣化が目立ち始めており、修繕が必要な部分がある。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	必要に応じ、施設や設備、物品の修繕を行い、適切な維持管理を行っていく。また、大規模工事や改修が必要なものについては、県に対し更新要望調査等で要望を行い、順次更新を行っていく。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	A	必要に応じ、施設や設備、物品の修繕を行い、施設の適切な維持管理を行っていく。また大規模工事や改修が必要なものについては、県に対しての更新要望調査等で要望を行い、順次更新を行っていく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

		事業番号	103	評価年度	令和7年度事業			
		優先度	A	シート区分	総合計画			
事務事業名	大田原グリーンパーク管理事業				計画	おおたわら国造りプラン		
担当名	部名	課名	係名			計画での位置付け	No.	
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	0635	01	00	基本事業		
事業期間		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 複数年度		(~ 年度)				

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 大田原グリーンパークの利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設の適切な維持管理により利用者増を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 適切な維持管理のため適正な予算化を図る。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設の適切な維持管理により利用者増を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	利用申請受付件数	前年度申請件数の3%増	365
②						
③						
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	利用者数	前年度利用者数の3%増	46,800	人
		②	施設利用率	前年度利用率の3%増	50	%
		③				

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	大田原グリーンパークは平成15年度に完成したサッカー・ソフトボール兼用コートであり、本市のサッカー及びソフトボールの競技力の向上に不可欠な施設である。令和5年度から大田原市スポーツ協会に管理業務の一部を委託することにより、職員の負担が軽減した。また、照明設備の操作盤をカード式からパスワード管理型に更新した。それにより照明利用時間の正確な管理ができるようになった。周辺の稲の発育不良問題に協議し対策を行った。今後の経過を観察し、問題があれば再度協議し対応していく。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容		令和5年度 決算額	令和6年度 予算額		
	事業費計		15,079	17,524		
財 源 内 訳	国庫支出金	20	20			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他特定財源	0	0			
	一般財源	15,059	17,504			
(c) コストの対前年比			116.21%			

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	16
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	利用申請受付件数	365	件	455	1	増加指標	124.70	%	a
②						算定不可		%	
③						算定不可		%	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	利用者数	46,800	人	48,142	1	増加指標	102.90	%	a
②	施設利用率	50	%	49	1	増加指標	98.00	%	
③						算定不可		%	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		照明設備の修繕を行い、現状の起きている課題を解決する必要がある。 芝の管理について、除草剤を散布をするタイミングで業者と葉害の影響がでている周辺の水田の所有者と事前協議をして、円滑な維持管理を行っていく。
	前年度から の改善結果	改善した	照明設備の修繕を実施することにより、現状の課題の解決に成功した。 芝の管理による稲作の葉害問題について、水田の所有者と今後の対応について、事前協議は完了した。今後の経過を観察する必要がある。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	A	A	芝の保守管理業者には、芝管理だけでなく、施設内の植栽や樹木、周囲の除草などを計画的に実施してもらい、環境美化にもつながっている。芝の管理に使用している除草剤がグリーンパーク周辺の稲の発育に影響を及ぼしている可能性があったが検査をした結果農薬の成分は検出されなかった。しかし今後の経過観察が必要である。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	夏季の気温上昇、一時的な大雨に対しての日陰となる待避所等の設置を要望されている。 除草剤散布を定期的実施するが、施設が農地に囲まれており地元から注意喚起の要望が来ているので今後も委託業者と連携し注意を払いたい。 高齢者やトイレの完全洋式化とウォシュレットの設置を要望されている。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	芝の管理について、除草剤を散布をするタイミングで業者と周辺の水田の所有者と事前協議をし、稲作に影響を出さない施設管理をおこなっていく。現状、除草剤を散布する際に風に運ばれて吹き抜けてしまうと予測される箇所に農薬飛散防止ネットを張り、対策している。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	A	駐車場の増設及び芝の管理の徹底により利用増が見込まれるため、不具合が発生している設備の早急な対応とグラウンドの適正な管理を行うこと。 また、隣接する耕作者等との友好な関係を保つこと。

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	3	15
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	4		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	4		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	4		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	使用申請受付件数	2,239	件	1,394	1	増加指標	62.30	%	c
②						算定不可		%	
③						算定不可		%	

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価		
		単位					各指標評価	指標全体評価	
①	利用者数	39,200	人	27,207	1	増加指標	69.40	%	c
②	施設の利用率	58	%	52	1	増加指標	89.70	%	
③						算定不可		%	

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正、改善 等)		適切な施設の維持管理に努め、計画的に施設の修繕や更新を行い、利用者の増加を図りたい。
	前年度から の改善結果	検討中	適切な施設の維持管理に努め、計画的に施設の修繕を行った。
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等
	B	B	令和5年度においては、行動制限等も無くなったが利用者数は伸びず目標値の約69%に留まった。要因としては、市郊外という立地的な問題や、無料の体育施設へ利用者が流れていることなどが一因として考えられる。また、当公園内施設は使用開始から20年以上経過し老朽化が進んでおり、修繕を要す箇所も多くあり、今後改修や更新等の検討が必要な時期を迎えている。

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	当公園内の各施設の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕が必要である。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	適切な施設の維持管理に努め、計画的に施設の修繕や更新を行い、利用者の増加を図りたい。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	B	適切な施設の維持管理に努め、計画的に施設の修繕や更新を行い利用者の増加を図りたい。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和7年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

1. 基本事項

事務事業名		黒羽体育館武道館管理事業				事業番号	105	評価年度	令和7年度事業
担当名		部名	課名	係名		優先度	B	シート区分	総合計画
予算科目		会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	おたわら国造りプラン	
事業期間		□単年度 □複数年度 (~ 年度)				計画	計画での位置付け		
		教育部	スポーツ振興課	管理係		政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり		No. 2
		一般会計	10.06.02	0702	01	00	基本事業	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14

2. 計画(Plan)

計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 黒羽体育館の構成施設のうち、アリーナの利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 スポーツ施設の安全性と快適性を十分備えた施設環境を提供し、市民一人1スポーツの取り組みを推進する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 施設設備の定期点検等を通じて故障等の早期発見を行い、施設修繕、改修を適時実施するなど、施設の適切な維持管理により利用者増を図る。また、光熱水費等のコスト削減を図る。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設利用の促進により、余暇活動の充実及び健康増進が図られる。

指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	使用申請受付件数	年度当初予約件数	33
②						
③						
成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	利用者数	年度当初予定人数	4,500	人
		②				
		③				

3. 実行(Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	市民一人1スポーツの取り組みを推進するため黒羽体育館の施設設備の安全性と快適性を維持すべく施設の管理を行っている。しかし、当該施設は昭和54年の供用開始から四十数年が経過し、老朽化による施設設備不良と安全性に問題が生じていることから、令和5年11月を以て施設の使用を休止した。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容		令和5年度	令和6年度		
			決算額	予算額		
事業費計			5,183	3,780		
財源内訳	財源	国庫支出金	0	0		
		県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		その他特定財源	0	0		
		一般財源	5,183	3,780		
(c) コストの対前年比				72.93%		

4. 評価 (Check)

(1) 妥当性 評価	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価	
	①	自治体を実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・	4	3	15
②	計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。	やや高い・・・		3	4		
③	資金(税金)投入は妥当である(あった)か。	やや低い・・・		2	4		
④	上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。	低い・・・		1	4		

(2) 効率性 評価	活動指標名	目標値 a	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a	効率性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	使用申請受付件数	33	71	1	増加指標	215.20 %	a	a
②					算定不可	%		
③					算定不可	%		

(3) 有効性 評価	成果指標名	目標値 c	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c	有効性評価	
		単位					各指標評価	指標全体評価
①	利用者数	4,500	1,580	1	増加指標	35.10 %	d	d
②					算定不可	%		
③					算定不可	%		

(4) 担当課 評価	前年度記載 今後の取組 (修正・改善 等)	施設の老朽化に加え耐震化が必要なことやキュービクルを単独で設置していないなど、大規模な施設改修が想定される。また、現状安全な利用を提供できる状況にないため、現在利用予約があるもの限り貸し館を行うが、それ以降については休館とする予定である。既に、代替施設として黒羽中学校屋内運動場を指定し、利用団体の活動場所の移行も終了している。						
	前年度からの 改善結果	改善した	老朽化による施設設備不良と安全性に問題が生じていることから、令和5年11月を以て施設の使用を休止した。					
	評価表からの 評価	担当課 評価	評価の理由等					
	C	A	老朽化による施設設備不良と安全性に問題が生じていることから、令和5年11月を以て施設の使用を休止した。					

5. 今後の取組に向けて (Act)

(1) 事業実施上の 課題等	○老朽化による施設設備不良と安全性に問題が生じていることから、令和5年11月を以て施設の使用を休止したが、施設内に旧黒羽町時代からの文書等が保管されており、機械警備が必要なため電力使用を完全に停止することができない。 ※高圧電力は廃止手続きが完了したが、今後も低圧電力電気料金の支出が必要、機械警備委託料も継続して必要となる。
(2) 今後の取組 (修正・改善等)	老朽化による施設設備不良と安全性に問題が生じていることから、令和5年11月を以て施設の使用を休止した。 ※これまでの利用団体については、令和4年度中に代替施設として黒羽中学校屋内運動場を指定し、令和5年度より移行が完了している。

6. 部内評価会議の結果 <最終評価>・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
R06.07.24	B	利用者の安全を第一に考え休館とする。